

トピックス

〈報告〉 ザンビア大学医学部訪問

附属病院・小児・AYAがんトータルケアセンター 澤田博文

はじめに

三重大学大学院医学系研究科は、アジア・アフリカにある協定大学からの大学院生受け入れを行う「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」を実施しており、2022年に第3期のプログラムが文部科学省から採択されています。また、COVID-19により2020年以降中断されていた医学部学生の海外臨床実習が2023年度から再開されました。この機会に、長年のパートナーシップを結ぶザンビア大学を訪問し、今後の学術交流の推進に向けての協議等を行なってきました。最近指導したザンビア大学からの留学生がザンビア帰国後に活躍中であることから、肝胆膵・移植外科 水野教授（Dr. Chipaila Jacksonを指導）と小児科 澤田（Dr. Jane Kabweを指導）で訪問しました。そして、形成外科・成島教授の指導を受け最近帰国したDr. Banda Chihenaがザンビア大学で進める「ザンビアへのマイクロサージャリー技術移転プロジェクト」に協力いただいている四日市北ロータリークラブのメンバーの方々も三重大学訪問団に同行されました。以下に報告させていただきます。

I. 日程

2023年6月10日（土）～6月17日（土）

II. 訪問メンバー

三重大学

堀 浩樹（医学系研究科長）

6月15日～18日滞在

水野 修吾（医学系研究科肝胆膵・移植外科学 教授）

6月10日～14日滞在

成島 三長（医学系研究科形成外科学 教授）

オンラインで参加

澤田 博文（医学系研究科小児科学 講師）

6月10日～17日

四日市北ロータリークラブ

（形成外科マイクロサージャリー技術移転プロジェクト）

松井 法子（ロータリー財団委員長、羽津眼科医師）

植村 秀人（ロータリークラブ幹事）

松岡 賢（ロータリークラブ次期会長、

マツオカ建機株式会社代表取締役社長）

III. 活動内容

往路：6月10日～11日

名古屋発ドバイ経由ルサカ着

6月11日 18:00～

訪問メンバーと、Drs. Jackson、Jane、Bandaを

交え、三重大学医学部からの実習生5名と実習や最近の活動について意見交換。

6月12日

1. ザンビア大学医学部訪問 9:00～

Prof. Evans Mpabalwani 医学部長表敬訪問
(2023. 6. 1 就任, 小児科医、ウイルス学専門、
東北大学留学経験あり)

(1) 三重大学医学部とザンビア大学医学部との交流プログラムについて、2020年から2022年はCOVID-19のため中止されていた学部生の臨床実習が、2023年から再開され、三重大学から5名がザンビア滞在中である。協力への感謝と今後の協力をお願いした。今後、ザンビア大学の学生の日本での実習も再開したいとの希望が示された。

(2) 国費外国人留学生優先配置プログラム(MEXTスカラシップ)での留学経験者3名が、ザンビア帰国後も三重大学との交流の下で活動中であるが、2024年度の本プログラムへの応募は2023年10月から12月である。毎年4名の採用を予定している。意欲ある候補者の応募をお願いした。年齢制限が35歳であることが課題となることがある、ザンビアでの医学部卒業年齢は28歳以上であり、地域での研修などのプログラムの後、MEXTスカラシップに応募することとなるが、35歳であると難しいケースもある。これは、いつもこのプログラムの説明の時に、最も多い質問であるという。

(3) 最近、本学形成外科で学びザンビアに帰国したBanda Chihena医師が、三重大学で学んだマイクロサージャリーの技術をザンビアに移転する目的で、トレーニングセンターを創設し、ザンビアでの熱傷などの治療成績を改善する取り組みを、四日市北ロータリークラブとルサカロタリクラブの支援により進めている。センターを設置する場所、教育用、

診療用の顕微鏡など具体的な使用方法について議論された。設置予定の手術室を視察した。



2. 在ザンビア日本大使館訪問 14:00～

大使表敬、医務官との意見交換

在ザンビア日本国大使館 特命全権大使

竹内 一之氏

一等書記官兼医務官

遅野井 雄介氏

二等書記官

松浦 謙二氏

(1) COVID-19のため中止されていた学部生のザンビア大学医学部との交流プログラムによる臨床実習が2023年から再開され、三重大学から5名の学生がザンビア滞在中である。これまでの協力への感謝をお伝えし、今後の協力をお願いした。

(2) 医学系研究科大学院では、文部科学省の国費外国人留学生優先配置プログラムに採択され、三重大学で博士を取得した医師麻酔科医、外科医、形成外科医が、それぞれザンビア大学で指導的な職に採用され活動していること



3. ザンビア大学附属病院見学 11:30~12:30

University of Zambia, School of Medicine and the University Teaching Hospital (UTH). (本学協定校、Dr. Chihena Bandaが勤務している病院)

小児病棟、小児外科病棟、NICUなどを見学した。

4. ランチタイムセミナー 13:00~14:00

Lunch hour Seminar (Topic : Opportunities about Studying at Mie University Japan : 15 - 30 minutes, then Question and Answers : 15 minutes)

プログラム

- (1) Mpabalwani医学部長からのセミナー開催趣旨説明・国費外国人留学生優先配置プログラムの紹介 (10分)
- (2) 三重大学への国費外国人留学生優先配置プログラムと大学院での研究の実際について (澤田、15分)
- (3) 三重大学肝胆膵外科での大学院での研究 (水野教授、15分)
- (4) 留学とキャリア形成について (Kabwe医師) 対面とザンビア国内の主要病院へのWEB配信により約80名の参加があった。質疑応答内容とし



2. レヴィ・ワナワサ 医科大学訪問 10:00~11:00

Levy Mwanawasa Medical University (LMMU) and its Teaching Hospital (Tour and Meeting with the Dean) (Dr. Chipaila Jacksonが勤務している新設医科大学附属病院)

Dr. Chipaila Jacksonが肝胆膵外科ユニットのチーフを務める病院である。最近設立された、国立医学部単科大学であり、現代的な設備が揃ったキャンパスであった。医学部長と面談し、大学設立の理念や教育方針などの説明を受けた後、講義室など周辺施設を見学した。将来的に、三重からの学部生実習受け入れ先として検討していただければ、学生の受け入れ場所が増やすことができるという提案をいただいた。

て、35歳の年齢制限が多く留学希望者の障壁となっていること、別のプログラムのオプションはあるか、がん看護などの看護系のコースは選択できるか、などの質問があった。本学が提供する国費外国人留学生優先プログラムが、ザンビア医師、学生のキャリア形成において非常に重要な役割を果たしていることや、大学からも人材育成の上で大きく期待されていることが、参加者の言葉から実感された。



5. Rotary meeting with Lusaka Rotary club

18:30～

現地参加：水野教授、澤田

三重大学医学部6年生（5名）、
ロータリー（松井氏、松岡氏、植村氏）
Drs. Banda Chihena, Jane Kabwe,
Chipaila Jackson

オンライン参加：堀研究科長、成島教授

それぞれ、自己紹介の後、形成外科マイクロサー

ジャーリー技術移転プロジェクトの紹介を行なった。堀研究科長からの三重大学とザンビアとの交流紹介のあと、四日市北ロータリーメンバーによる茶の実演を行なった。ロータリーメンバーとザンビア大学関係者との交流機会となった。

6月14日

1. 周辺施設視察

Chaminuka自然保護区。ルサカ・ロータリーメンバー同行。

6月15日

1. 周辺施設見学

10:00 製麺工場視察

11:00 産科クリニック建設現場視察

13:00 ルサカロータリークラブメンバーと昼食

15:00 国立博物館見学

2. 訪問の報告

17:00 堀研究科長がルサカに到着。訪問団帰国に際し、ホテルロビーにて訪問の報告とザンビア大学の三重大学留学経験者3名を交えて意見交換。

18:30 訪問メンバーは空港へ出発



復路：6月15日-16日ルサカ発ドバイ経由羽田着；17日羽田発名古屋着

6月17日～

堀研究科長ザンビア大学、大使館、JICA事務所を訪問。

終わりに

実習に参加した医学部6年生にとっては、3年ぶりの国際的な交流からの学びの機会となり、充実した実習となったことが伺え、また、三重大学への国費留学で学位取得した医師が、ザンビア大学医学部の大きな期待を受け、それぞれの分野で先駆的な活動を精力的に実行していることが印象

的でした。私にとっては初めてのザンビア訪問でしたが、滞在中訪問した先々で、長年の三重大学とザンビア大学とのパートナーシップが認識され高い評価を受けていることが実感でき、今後さらに双方の成果につながる学部生、大学院生、教員各レベルでの交流への発展の可能性を感じました。